

「必ずしも集団的自衛権の行使を否定しない」

▼この日の一問

「私個人は必ずしも集団的自衛権の行使を否定するものではない」

安全保障法制に関する特別委員会でも通算4回目の質問に立った29日。ただ、「そういう私でも、首相が示したケースは、個別的自衛権で説明しきれないものではない」とも続け、政府のこれまでの説明に疑問を呈した。

民主党の考え方は「安倍政権が進める集団的自衛権の行使は容認しない」。党きつての安保族は「30年来集団的自衛権を支持してきた」と自負するが、安倍政権の示す集団的自衛権には否定的だ。

自身の役割を「私でもこの法案に全面的賛成ではない」と示すこと」と話す姿に

民主・長島昭久氏



は、党の立場と、持論とのはさまで質問せざるを得ないもどかしさにもにじむ。

この日は、日本周辺で米軍の艦船が他国から攻撃を受けた場合を例に「集団的自衛権」と「個別的自衛権」の違いについて、問いを重ねた。だが、横島裕介内閣法制局長官の答弁は26日の安倍晋三首相の答弁と食い違い、中谷元・防衛相の答弁は過去の法制局長官とのずれを露呈した。

論戦がはじまって約1カ月。憲法審査会で参考人が法案を違憲と指摘して

から、議論は憲法論に大幅な時間が割かれている。「詳細を詰め切れていない政府と、細かい質問をしてこなかった野党の怠慢だ」。質問後、記者にこう語り、安全保障論が抜け落ちた状況に苦虫を噛み潰したような表情をみせた。

◇ (上地一姫)

議員の武器は言葉であり、その戦いの場が国会。安全保障政策の大転換を前に、なにを問う、なにを国民に示すのか。「この日の一問」に焦点をあてます。